



前後際断

<さあ3年生諸君!!、1・16と1・17は決戦の日!!>

新年、明けましておめでとうございます。平成 28 年が幕を開けました。

3年生の皆さんにとっては、いよいよ大学入試シーズンの本格的な到来ですね。1月16日(土)・17日(日)には全国693の大学が参加して「大学入試センター試験」が行われます。

本校生徒は両日にわたって、山梨大学(武田キャンパス)179名、山梨県立大学(池田キャンパス)77名、そして山梨英和大学22名の3会場に分かれて試験に挑むこととなりますが、どこにいても「やることは一緒」です。当日の朝は各会場で指定された場所に学年の先生方が待っています。必ず先生方の顔を見て、一息ついてから平常心を以て試験室に入ってください。

今年の入試は、学習指導要領の改訂に伴う新課程完全移行元年になります。世間ではこの一年間、大学入試に対して「変化」をキーワードに語られてきた感がありますが、それは今までのことを知っている人が周囲で口を開いているだけです。その体制の中で育ってきたあなたたちにとっては全てが「普通」どおり…何も臆することはありません。試験室に入って、机を前にしたら、あとは自分の3年間を信じて鉛筆を握るだけ…です。

大切なことは、2日間の全行程を通じて、ひたすらに「前だけを向く」こと、そして自分が置かれている状況を「楽しむ」こと、です。何か事を為すには、常に「振り向かない」強さと「腰を据えた」図々しさを持ちたいものです。

そんなことを願って、試験に臨む3年生の皆さんに「前後際断(ぜんごさいだん)」という言葉を送りたいと思います。

これは、もともと曹洞宗の開祖である道元の言葉だと思うのですが、江戸時代の禅僧沢庵によっても語られています。沢庵は「前後際断と申す事の候。前の心をすてず、又、今の心を跡へ残すが悪敷候なり。前と今との間をば切つて除けよと云う心なり。是を前後の際を切りて放せといふ義なり。心をとどめぬ義なり。」と言っています。

皆さんには「分かっちゃいるけど…」というところかも知れません。…でも、これが**勝利の秘訣**です。「(力が同じであれば)最後にモノをいうのは精神力」…ぜひ「前後際断」の気概を以て臨んでください。

平成 28(2016)年 1月 16日 (土)		平成 28(2016)年 1月 17日 (日)	
地理歴史	2科目受験 9:30~11:40	理科①	9:30~10:30
公民	1科目受験 10:40~11:40	(基礎)	
国語	13:00~14:20	数学①	11:20~12:20
		数学②	13:40~14:40
外国語	筆記 15:10~16:30	理科②	2科目受験 15:30~17:40
	リスニング 17:10~18:10	(専門)	1科目受験 16:40~17:40

<南高生に読んでもらいたい一冊>



今回は、岩村暢子著『日本人には二種類いる—1960年の断層』（新潮新書、2013）を紹介します。1953（昭和 28）年生まれ、大手広告会社での職業経験を経て、食卓を定点観測の場とした研究を行っている人物です。

紹介した本は「食卓」にこだわったものではありませんが、「1960年」を基準にして、「50年代までに生まれた人々と60年代以降に生まれた彼らは、たとえ同じ時代にあっても、さまざまな局面で違う光景を見、別の体験をして生きてきた」と捉えています。そして親の世代、育児・教育、食事、玩具など生活に密着する35の項目を通じて、「60年代以降の生まれであれば、70年生まれでも80年生まれでも、多くの事について気づかぬうちに共通の体験をしている」と説明しています。断層の境を「1960年生まれ」とあまりにも明確に断言しているのも、そんなに切りよく「転換」するものでもないだろうと感じる部分もありますが、著者の論点には興味深いものもあります。

著者は、平均出産年齢から「1960年生まれ」の母親世代を1932年～1934年辺りに生まれた女性と捉え、この年代に生まれた女性たちの生育過程に注目しながら、1950年代生まれとは異なる「1960年生まれ」の背景を論じています。私は「1960年生まれ」より6歳年下ですが、母親がまさに著者の注目した年代ですので、読んでいて妙に腑に落ちる部分がありました。おそらく保護者の皆様の中には同じ感想を持つ方もいらっしゃるのではないかと思います。

巻末の【おことわり】で「本書は読みやすさを優先したため、参考引用文献やデータの出典など詳細を敢えて省略した部分があります。」と記されていますが、ここで注目されている内容の中には今後、社会史などの分野で更に深化していくものあると感じます。「研究」などという大袈裟なレベルでないにしても、高校生が両親や祖父母の生きた年代を知り、その年代ごとの価値観や背景などを再確認するのも良いと思いますし、「家族団欒」の会話のネタにするのも良いかも知れません。

<「謹賀新年」平成28年・丙申!!>

今日は暦の上では小正月…ですね。一番最初にも書きましたが「新年 あけましておめでとうございます。」

古くは今日までが松の内だったそうで、『土佐日記』や『枕草子』などには1月15日に小豆粥を食べたことが記されています。因みに、私の若いころは今日が祝日「成人の日」でした。

「進路だより Frontier Spirit」を私が担当するようになった昨年4月以来、今回で第11号を発行する運びとなりました。

生徒たちや保護者の皆さん、先生方が「進路だより」を読みました。〇〇の内容が…。」

と声をかけてくれるのがとても嬉しく、それを励みにしています。

今年も「進路だより Frontier Spirit」を、皆さんが手にとって読んでくださる（申）ように、心を込めてつくっていきます。宜しくお願い致します。



「心がほっこりとしたとき」

年末、いつも利用しているガソリンスタンドで給油しました。対応してくれたのは初顔のアルバイトらしき若者…。彼に自覚はないのでしょうか、その表情や態度、口の利き方の一つ一つに不快な思いを募らせながら店を出ました。

年が明け、些末な記憶はいつしか薄くなっていた一月四日の朝。出勤途中で、よく立ち寄るコンビニエンスストアに入りました。ホットコーヒーを注いでいると、レジの対応を一段落させた店員さんが、わざわざレジ越しに私の方に顔を見せて「今年も宜しくお願ひします」と言ってくれました。私が「顔を覚えてくれてるんですね。」と言うと、「お客さん皆を覚えようとしています。なかなかできませんが…一生懸命覚えていきます。」の答え。嬉しくなりました。やはり「仕事は人柄がモノを言う」のですね。